

井草会 NEWS

1994 No.26

発行者：井草会会報委員会

東京都立井草高等学校内

(練馬区上石神井2-2-43)

電話：0120-088-193 (フリーダイヤル)

発行：平成6年8月25日

郵便局為替：東京2-84359

同窓会室確保にむけ事務局始動！

本年度より、井草会の新たな活動として、井草会同窓会室確保のための準備機関として、事務局にフリーダイヤルの電話とファックスを設けました。大きな目標に向かった小さな一步ですが、ご期待下さい。

このほか、本年度は、同期会・OB会に対して援助金制度の設立。会報のデザインを新し、より多くの人に読みやすく、多くの情報が掲載出来るようにB5判からA4版に体裁もかえました。今後も活動の充実を計ってゆく予定ですが、会員皆様の会費の納入がすべての活動の基礎になります。同封の振込用紙を利用してお早めに納入下さい。

新しい番号は、
イグサ
0120-088-193

です。フリーダイヤルなのでどこからも気軽にご連絡ください。電話とファックス共用ですが、電話は平日9:00-17:00におかけください。ファックスは24時間OKです。



井草会活動に助力のお願い

名簿・会費委員長 8A 平山 熟

井草会創立以来1万8千名近くの井草高校卒業生を輩出して参りました。そして毎年『井草会会報』を会員の皆様にお届けしています。現在、住所不明者や物故者を除き、約1万3千部近くを送付致しておりますが、井草会の運営は、井草会会員の1割強の方の会費にたよっている状況です。

- (1) 平成6年度井草会年会費2千円を納入下さる様にお願い申し上げます。
- (2) 井草会活動の拠点として、とりあえず井草会専用事務所を探しています。安価で、長期にわたって活動が出来る場所を提供していただける方を募集致します。

目次

井草会活動報告	2-3
OB・OGインタビーム	4
先生お元気ですか	5
回想・感想・一言	6
一言通信	7-9
不明者リスト	9
井草会フォーラム'93より	10
武田教頭メッセージ	11
1994年卒業生進路状況	11
寄付者名簿	12

「同期会・OB/OG会援助金制度」のお知らせ

井草会では、会の活性化を目的として、会員の皆様が同期会、OB/OG会を開催する際に資金援助をするための「同期会・OB/OG会援助金制度」を設けました。下記要件を備えることが条件ですが、会員の皆様のご利用をお待ちします。ご利用希望の方は、同期会又はOB/OG会援助金希望と明記し、ハガキでお申し込み下さい。折り返し申請書を送付致します。

MEMO

同期会を行う時に何かと面倒な案内状の発送業務（宛名書き・印刷・発送）の代行業者をご紹介いたしますので、ご希望の方は井草会までお問い合わせください。

同期会・OB/OG会援助金交付案内

1. 支出の対象 同期会又はOB会・OG会の開催（クラス会は該当しません）
2. 交付金額 参加人数により援助金が異なります。
3万円（参加者25名以上50名未満）
5万円（参加者50名以上）
3. 提出書類
 - (1) 同期会OB・OG会援助金申請書
 - (2) 参加者名簿（住所電話）のコピー
 - (3) 参加者全員の写った写真
 - (4) 200字以内のコメント文
4. 援助金の支払い 上記の提出書類の確認後、指定口座に振り込みいたします。

申込先：〒202 東京都保谷市北町2-16-3 森井 出
(尚、電話によるお問い合わせはご遠慮ください。)

井草祭へ今年も参加します。是非ご来場を。（9月17日-18日）

場所：被服室・新聞委員会室（10:00-17:00）

内容：書画・手芸昔の今日（9/17-18日）の新聞のコピー展示他、お茶席も用意しましたのでお立ち寄りください。

▼▼井草会活動報告▼▼

平成 6 年度、平成 7 年度の井草会役員・理事は次の通り、5 月 22 日の幹事総会で決定しました。

会長：	新井 雅晴	(高 13D)
副会長：	隆野 豊子	(高 1)
副会長：	遠矢 良隆	(高 6A)
常任理事：	(庶務担当)	
	大西 久江	(高 5E)
	新田 秀夫	(高 21F)
	黒沼 恵子	(高 30I)
	(会計担当)	
	岡安 敏子	(高 4F)
	村上 俊雄	(高 25E)
会計監査：		
	西田 実	(高 17B)
	久米 浩一	(高 26D)
理事：名簿会費委員会		
	谷 恭子	(高 2A)
	木場 和子	(高 2B)
	渡辺 旭	(高 2B)
	金沢 美保子	(高 3B)
	鈴木 安江	(高 3E)
	青木 宣子	(高 4C)
	杉浦 忍生	(高 6B)
	平岩 允里子	(高 6C)
●平山 熱	(高 8A)	
木村 忠正	(高 9D)	
佐藤 美香	(高 46D)	
会報委員会		
	佐藤 治子	(女 1)
●名方 幸彦	(高 22B)	
	宮尾 一弘	(高 30I)
	鰐見 玲子	(高 45B)
	金松 由佳	(高 45C)
	橋本 淳子	(高 45G)
	小林 和映	(高 46F)
事業委員会		
	畠中 千代子	(高 3D)
	福嶋 盈子	(高 3D)
	那須 良江	(高 5B)
	尾身 保隆	(高 6C)
	坂本 正義	(高 8A)
	谷口 知栄子	(高 11F)
	倉島 和子	(高 14F)
	風田川禎男	(高 15D)
	旗 利彦	(高 15E)
	熊谷 和子	(高 15F)
●森井 出	(高 17E)	
月岡 健一	(高 17G)	
高野 牧子	(高 33B)	
佐藤 博文	(高 35B)	
大山 俊哉	(高 35I)	
菅 裕紀	(高 38C)	
臼田 清	(高 41I)	
伊藤 韶	(高 45A)	
秋田 典子	(高 46B)	
小原 寿恵	(高 46C)	
内田 真未	(高 46E)	
武居 雄紀	(高 46G)	
(●印は委員会委員長)		

役員会・委員会の活動報告

役員会・委員会の活動報告

平成 5 年 6 月 6 日 第一回合同委員会

各委員会の活動計画の検討、名簿購入希望者、2000 名程度井草祭参加、卒業生による討論を提案。

5 月 7 日 事業委員会、井草祭参加について学校と話し合う

5 月 7 月 11 日 会報委員会、編集会議

5 月 7 月 12 日 事業委員会、新井素子さんにインタビュー。

5 月 9 月 4 日 事業委員会、井草祭参加準備。

5 月 9 月 18 - 19 日 事業委員会、井草祭参加、野点、会員の作品展、井草フォーラム。

5 月 10 月 3 日 第二回合同委員会、井草会の反省、会報発行の報告、名簿調査のための返送が少なかった。会報 2 回発行について検討、OB 会援助会則について。

5 月 12 月 5 日 第三回合同委員会、会費納入状況の報告、会報 2 回発行の検討、否決。OB 会援助を同期会にも適用したい。

6 月 2 月 6 日 第 4 回合同委員会、名簿完成、約 2200 冊販売、入会金値上げ、新卒生に了承を得られた。役員改選の件。

6 月 3 月 27 日 役員会、決算、予算作り、総会準備、役員の人選 事務所新設について検討。

6 月 4 月 10 日 臨時合同委員会、OB・同期会援助費の細則作り。事務所開設準備金について検討、決算、監査報告。

6 月 5 月 22 日 幹事総会、平成 5 年度活動報告、決算報告、平成 6・7 年度役員・理事選任、事務所設営の件、早急には出来ないが、実施の方向で賛成。



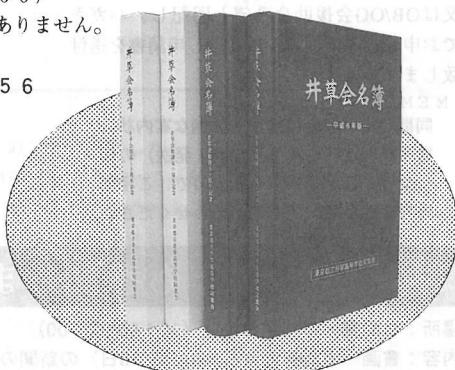
● 新「井草会会員名簿」(平成 6 年度版) 完成 ● ● ● ● ● ● ●

井草会創設 50 周年記念の一環として制作準備を進めていた新会員名簿が、皆様のご協力により、予定通り今年 1 月に完成しました。

購入予約をいただいた会員には、すでに配布済ですが、まだ若干の在庫があります。今からでも購入希望の方は至急、電話にてお申込み下さい。(定価、送料込で ¥5000)

尚、今後 5 年間は名簿作成の予定はありません。

名簿申込電話：03-3351-0956
新井 雅晴まで。

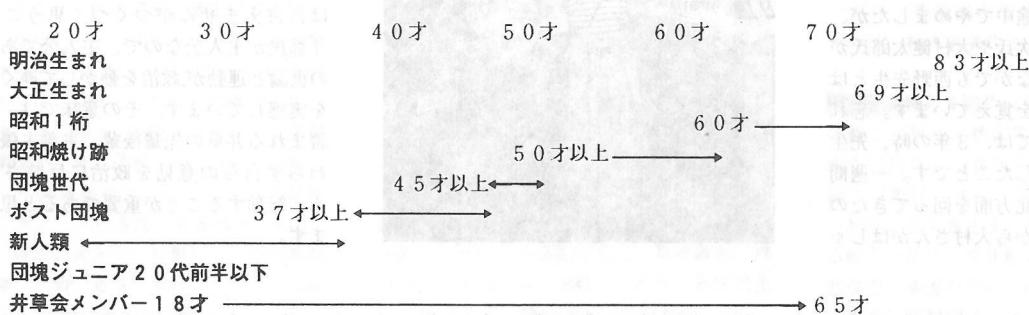


井草会 平成5年度決算及平成6年度予算

(単位:円)

	5年度予算	5年度決算	6年度予算
収入			
繰越金	1,896,890	1,896,890	4,286,816
名簿積立金繰入	1,000,000	1,000,000	—
入会金	810,000	810,578	1,608,000
会費及寄付収入	2,000,000	4,572,938	3,000,000
名簿販売収入	—	20,000	250,000
雑収入	50,000	36,995	50,000
計	5,756,890	8,337,401	9,194,816
支出			
会報委員会費	2,100,000	1,963,933	2,650,000
会報通信費	1,600,000	1,518,597	1,800,000
会報印刷費	400,000	429,716	650,000
委員会活動費	100,000	15,620	200,000
名簿委員会費	1,250,000	1,176,721	200,000
名簿作成費	1,000,000	1,020,000	—
名簿購入費	150,000	126,000	—
委員会活動費	100,000	30,721	100,000
通信費	—	—	100,000
事業委員会費	200,000	315,539	900,000
井草祭参加費	—	—	200,000
OB・OG会同期会援助費	—	—	500,000
委員会活動費	—	—	200,000
理事会・委員会幹事			
活動費	600,000	433,506	600,000
会議費	300,000	247,528	300,000
交通費	200,000	105,000	200,000
通信費	100,000	80,978	100,000
名簿積立金	—	—	1,000,000
事務所開設準備金	—	—	1,000,000
予備費	1,606,890	160,886	2,844,816
次年度繰越し	0	4,286,816	0
計	5,756,890	8,337,401	9,194,816

井草会会員の年代的広がり 現在、井草会会員の年代は、昭和1桁から団塊ジュニアの大学生まで半世紀の幅があります。



///OB・OGインタビュールーム///

今回より、社会のいろいろな分野で活躍されているOB,OGを職場に訪ねてお話しを伺うことを企画しました。第一弾として、自民党副幹事長、衆議院予算委員会理事として自社連合の仕掛け人である中川衆議院議員（旧姓 佐藤 高校14回生E組）に村山内閣の組閣の日に衆議院議員会館に伺いました。また、都議会共産党で活躍されている松村都議（高校15回生A組）に都議会まで伺いお話しを聞きました。

中川秀直さん

Q：井草の思い出は何ですか。

A：2年生の時、ちょうど60年安保の真っただ中で、同級生などと連れ立って国会に行ったことが思い出されます。今から思えば、これが私の国会へのきっかけでした。

Q：騒然とした時代でしたか。

A：そうですね、私の場合、社研で毎日のように議論をしていたことは確かです。ただし、議論に明け暮れていただけでなく、大いに遊びました。というのも、3年間担任だった大沢清男先生が素晴らしい人だからです。大変厳しい方でしたが、同時に生徒ひとりひとりにいたるまでよく面倒を見てくれました。夏には先生の故郷長野県松本市の自宅に泊めて頂き、上高地や穂高の山歩きに連れて行って下さったり、学校で補習など遅くまでご指導頂いたのを覚えています。



Q：充実した高校生活のようですね。

A：月に一回ぐらいの頻度で、学級全体で先生と一緒に旅行に行きました。それが、今でも「つばさ会」というクラス会として続いています。2年の時には、生徒会に立候補して議長をやりました。生徒集会などたくさん開いたことを覚えています。また、弁論大会では、自分の夢について語ったことが印象に残っています。

Q：政治活動ばかりだったのですか。

A：そんなことはありません。運動部として、テニス部で軟式テニスもしました。また絵が好きだったので、青山先生について油絵を描きました。もっとも、後にも先にも油絵を描いたのは高校時代だけです。

Q：井草高校について。

A：井草の校風は、自由で人間性にあふれ、偏見や差別がなかったです。安保の時、デモに参加、プラカードをもって行ったことで真田先生より校長室に呼ばれましたが、憲法をたてに主義主張の自由を主張しました。今思うに生意気な高校生にたいしても、議論を出来る場を保証してくれた

先生方の度量の広さに頭が下がります。

Q：今後の活動について。

A：現在は、大きな転換期ですが、日本も世界も個人が尊重される時代になると思います。今までの古い談合などの体質は通用せず、個人が大切にされ、個人が自由に発言し、行動できる時代になって行くことを確信します。その意味では、井草の校風である自由の精神が發揮される時代になるとすれば褒めすぎでしょうか。（笑い）

松村友昭さん

Q：高校生当時の思い出は。

A：ちょうど60年安保の頃で騒然としていました。真田校長の時で、国会に行ったのを覚えています。しかし、井草高校は当時から自由な雰囲気で楽しかったです。生徒数が男女半々である理由は、フォーカダンスの時に余った人がないようにと考慮したことでした。私の場合、兄が大泉高校を卒業しているので、大泉高校を受験したのですが、落ちて結局、井草に入りました。クラブ活動は、バレー部と社研に入りました。バレー部は途中でやめましたが、社研では、故川尻原次氏や大村健太郎氏が活動していました。なかでも西野先生とは大いに議論したことを覚えています。忘れられない思い出としては、3年の時、先生方と一緒に東北旅行したことです。一週間ほど十和田湖など東北方面を回ってきたのですが、帰りの汽車から大村さんがはしゃ

いで落ちたりするなど大変でした。今なら大問題になったことでしょう。（笑い）

Q：卒業後についてお聞かせください。

A：井草高校で3年間たっぷり遊んだせいか、2浪して独協大学に進みました。サルトルなど当時の学生のはやりだった実存主義からマルクス主義に傾倒してゆきました。当時日韓闘争70年安保など学生運動の高揚期で原水爆禁止運動などを経て入党しました。当時大泉学園で家が本屋をして

いたので、本屋を手伝いながら30歳の時に区議にすることになり、4期14年つとめました。区議時代は、主に文教委員会に所属し施設拡充運動などをおこないました。練馬は、人口急増時代で、ベットタウン化がすすみ、文教施設を作ることが重要でした。私のばあい、小、中、高とも私が卒業してから母校にプールができたですから。

Q：現在についてお聞かせください。

A：現在、都議の1期目で、都市計画・環境保全委員会の委員をしています。これが発行するところには法案が施行されているとおもいますが、環境基本条例の審議の真っ最中です。まだ1期生なので大きなことは、言えませんがつくづく思うことは、「都民が主人公なので、主人公である都民の世論と運動が、政治を動かしてゆく」ことを実感しています。その意味では、これを読まれる井草の先輩後輩、主義主張にかかわらず自らの意見を政治に反映させるべく、行動することが重要であると思っています。



先生 お元気 ですか

21世紀は 皆さんの世紀

英語科担当

杉野 隆



井草高校ご卒業の皆さんお元気ですか。小生当年62歳、身体に異常は全くありません。井草時代、兼任していた短大講師を辞め、「生徒の進学に役立つ英語指導」の研究に入ったのですが、今ではそれが本業となり、代々木ゼミナールで週17コマ(90分)を担当している現在です。お会いしたい人たちが沢山いますが、今も原稿の合間に、このご挨拶をしている次第です。いつになつたら、暇な生活に入るでしょう。夏はイギリスとオーストラリアを交互に訪れています。旅の話などゆっくり皆さんとしたいですね。不況に強い井草の卒業生であって下さい。21世紀は、皆さんの世紀です。常なる前進を祈りつつ。

井草高校の思い出

保健体育担当

金城 和貞

井草高校には、高校生として3年間。大学時代には、クラブのコーチ、臨海教室、教育実習等で4年間。その後、講師として3年、専任として12年。合計22年間お世話になりました。その長い間わりで、最初に思い出されるのは、群制度の3年目として木造校舎の焼け跡残るなか入学し、やっと学校にも慣れてきた2学期終りに学校紛争があったことです。冬休みを前に約1ヶ月間授業が行われず、毎日、全校集会、学年集会、クラス集会が開かれ、制服の廃止や色々な事が討議されました。細かい事はあまり覚えていませんが、高校生のすごさや、井草が変わっていく事を感じました。井草の校風「自由」が伝統になっていますが、自分達の事は自分達の責任でという「自由」は、この時に更に深まり

確認されたのではないでしょうか。2番目には、現在体育の教師をしているきっかけともいえることですが、ハンドボールとの出会いです。それは、ハンドボールという競技すら知りませんでしたが、縁あってハンドボール部に入部した事が、その後の生き方に大きく影響を与えた事です。高校時代は、伝統ある女子ハンドボール部のように素晴らしい成績をあげる事は出来ませんでしたが、良き先輩、仲間後輩にも恵まれ、気がつくと現在までハンドボールとの付き合いが続いております。その間、井草ハンドボールのOB会として、全日本選手権出場や全国クラブ選手権出場をはじめ、クラブチームの大会で、何度も好成績を収める事が出来ました。現在は高体連ハンドボール部の役員をしながらクラブ活動の指導や、OBチームの試合に参加しております。井草高校とは、生徒として、卒業生として、教員として、たくさんの先生方や、先輩、後輩に会うことができ、何とも変え難い貴重な勉強をさせてもらい、大変有難いことだと思っています。授業、担任、クラブ活動、臨海教室、スキー教室、井草祭等など、思い出せない程の経験が現在の自分の大きな財産になっています。井草高校から転勤する時に、全校生に、卒業しても、いつでも、どこでも、自分は都立井草高校の卒業生だと胸をはって言えるようになって欲しい。と挨拶しました。自分は、某都立高校卒業だと、井草高の名前を出さない卒業生がたくさんいると聞いたからです。とても悲しく思いました。私にとっては、「井草」の2文字は青春そのものであり、生涯忘れられないキーワードになるものと思います。最後になりますが、一生懸命に同窓会活動を支えてくださっている皆様には、申しわけなく、また感謝するとともに、同窓生の皆様方のご活躍と同窓会の更なる発展をお祈り申し上げます。

母校での同窓会

第13代校長

高部 正



平成元年の春の、ある朝のことです。校長室に、井草高女第一回卒業生という方が3名見えられました。話を伺い始めてすぐに私は、それはそれはということになりました。井草を卒業した年にそれぞれアメリカに渡り、今回、日本を観光するツアーに参加して、渡米後初めて日本に来られたということです。今日は自由行動の日なので、何をおい

ても井草へ行きましょうということで来校されたのだそうです。校内の案内をしましたが、屋上から周囲の景色を見られている時の懐かしそうな横顔と、在校生と話をされているときの嬉しそうな様子が印象的でした。渡米後40数年目の、母校での同窓会だったのです。

節度と忍耐を

育んだ井草



国語科担当

大沢 清男

昭和21年5月復員の後、暫く都の教員適格審査室で働いていた私は、その年の暮れ、当時の杉山校長に迎えられることになったが、勿論学校に関する知識は皆無であった。初めて見る学校は、木造2階建ての校舎が一棟あるだけで、どこから入っていいか判然せず、戸惑ったことを覚えている。こんな体験は私一人だけのことかもしれないが、一瞬新設校の悲哀というか、戦時経済の陰を見る思いがしたことは事実である。やがて同じく木造の平屋校舎が建てられ、一クラスの過密状態は何とか解消されたが、急造の校舎に当たられた生徒は大変であった。春先には特有の強風が襲ってきて、畑や校庭から吹き上げられた土埃が、容赦なく窓の隙間から入りこんで生徒を悩ませた。それでも髪を庇い、机上の埃を払いながら、よく耐えて勉強していた。戦後間もない時期とはいえ、それはひどいものであった。時の流れとともに井草も変容し、教育環境は整った。それでも、いやそれだけに私は、木造校舎に郷愁にも似た愛着を覚える。素材が木であることもさることながら、その不完全さが、学校らしくてよい。最初の校舎は古いながらも磨かれていたし、生徒は純朴であった。音楽室からは美しい歌声が聞こえていた。「追憶」「姉妹」「故郷を離るる歌」などは、その頃自然に聞き覚えてしまった。校舎を背にした特設舞台で、若い仲間と狸踊りに興じた思い出もある。思えば、旧校舎は私にとっての摇籃であり、同時に井草は、私を育んでくれたいわば心の故里である。「順境の美德は節度であり、逆境の美德は忍耐である。」という哲学者ペーコンの言葉を思い浮かべながら終わりたい。

(原稿到着順に掲載しました)

回 想 感 想 一 言

井草高校の青春時代

高校2回 B組 木場和子

突然、舞い込んだ“井草の思い出”という宿題。余りにも古い思い出で、私の頭の中で多くの先生方や友達の顔、田畠の中にボツンと建っていた馬小屋の様な校舎、囲いのない広い校庭、そしてそこで繰り広げられた様々な出来事が点となってかけめぐり、線につながらない。鉄筋コンクリート建ての整った今の井草には、私たちの青春の面影もない。19年の春、入学を許され、おかげで、新しい生活を緊張して迎えたのも束の間。戦争が激しくなり、一人二人と疎開のため去り、残された者で、校舎を守った。やがて終戦となり、再び戻って来た友、他より編入して来た友を迎える毎日毎日賑やかになっていった。やっと落ち着いた頃、6・3・3制が施行され、旧女学校5年で卒業する友を送り出さなければならなかった。その間、青山、桑田先生のご結婚、宮下、三田先生の大恋愛等には、私たち少女の胸をふくらませ、先生方の情熱と愛情によって、私たちは明るい自由な学生生活を送ってきた。まさしくあの頃の井草は50余年を重ねた井草高校の青春時代であった。

の愚息が一学年3~5人といったローマ日本人学校に元気に通い、様々な体験を通して一日と大きくなる姿を見る時、学校教育の素晴らしさを改めて実感させられる。いろいろな意味で地球規模の人間が求められている今日、親の責任を回避するつもりは毛頭ないが、発達段階に応じて様々な刺激が与えられる個性溢れる学校教育こそ必要であると感じる。今後ますます少子化を迎える中で、個性派「井草」への脱皮のため、「都立高校」の限界に挑戦していく必要があると感ずる。また、このことは無限の可能性を秘めた若者達への責務であろう。（＊清水さんは現在日本航空（株）ミラノ支店に勤務、ナポリサミットで忙しいなか、ファックスをいただきました。）

今のは引っ越し屋

高校45回 D組 宮田仁美

私の最近変わったこと？きっとこれは高校を卒業して今、自分の生きている社会についてのことだろうけれど、何かしら？今、私はフリーターだろうな。自分なりには、その小さな社会の中で自分の表現できるありとあらゆることに挑戦しているつもり。私は大学という組織の中にも入らず、よーするに低学歴の自分だけれど、興味あることには、素晴らしい力を發揮できるものだと思っている。今の仕事はただの引っ越し屋。でも1ヶ月に2~3軒、6~10日間は外国人。顧客に恵まれて、その日は通訳として活躍中。もちろん賃金交渉にも成功。港区に住むエグゼクティブな外国人宅は私にとってはおもしろくてしかたがない。ルクセンブルク大使だと、VOLVOの会社、クラブナッド、エアーライン、マーチンマリエッタ、などなどいろいろな人に会う。私は人間が好きだ。中には、私をとても気に入ってくれる人もいて友達になつてこれから的人生について話をしたりもする。難しいよね。私は今まで仮面をかぶつてしまつたため、未来を決めるにはとても力がいる。夢見る夢子に変わりはないのだ。でも、だからってじつと何もしなけりや後悔するよね。自分であることを傷ついてもっとめちゃくちゃ泣いても納得したいの。逆らつてもっと細胞レベルで確かめたいのよ。それが今の私。社会がかわっても私の源はかわらない。自分を嫌いになるのはやめようと思っているけどね。



「都立高校」の限界に挑戦

高校23回 G組 清水一巳

私にとって、ランドセルを背負って母親に手を引かれて入学した小学校、社会という荒波を前に最後のモラトリアムを謳歌した大学時代、に較べて高校時代の印象は極めて希薄である。「学校群制度」「学生運動」「受験競争」と見方によっては大きな変革期、激動期に遭遇したにもかかわらずである。今、私

井草高校と私～最近の日記より～

高校35回 I組 大山俊哉

井草高校を卒業して10年以上も経ちましたが、井草会を通じて、井草と私は今でも大切なつながりがあります。最近の日記から振り返って見たいと思います。6年5月22日（井草会幹事会）年一回の大切な総会だが、懐かしい友人に会えるのが楽しみ。今年も卒業以来再会した同期の幹事が参加していて話がはずむ。6年6月5日（井草会事業委員会）メインテーマは井草祭への参加について。卒業して10年経っても井草会は楽しい。高校時代に戻って遊んで、旧友との再会を楽しみに、委員みんなで準備する。6年6月20日、会社の人事より、7月4日付けで大阪転勤の内示を受ける。帰つて部屋の整理をしていたら合格通知や卒業証書を久しぶりに見る。つい卒業アルバムにも手をのばし、整理が全くはかどらない。

ハンドボールOG会

高校7回 D組 国友 栄



昭和27年第7回国体福島大会、高校5回生、6回生、7回生のチームで参加。昭和28年第8回国体愛媛大会、高校6回生、7回生、8回生のチームで参加。昭和29年第9回国体北海道大会関東地区予選参加、決勝延長で敗れました。高校7回生、8回生、9回生のチームでした。大阪藤井寺でのインターハイの参加。今は室内競技となりましたが、昭和30年代頃迄は、サッカーグラウンドのようにフィールドで行われていました。高校7回生の入学と一緒に着任された、天野敏雄先生の顧問で、毎年の大会を無事終わらせて来たことを思い出します。昭和47年頃、井草同窓会館でOG会らしいことをしたのですが、皆さん子育てで忙しく、赤ん坊を連れての参加でした。その後、コーチとして大変お世話になった時田さん（奥さんは9回生の大橋由美子さんです）の計らいで、上井草にある日産会館にて昭和62年夏、堂々とOG会を開きました。7回生から15回生位でしょうか、30名程の会になりました。その時は、顧問の先生にも参加していただきました。この時、毎年やりましょうと声だけはあったのですが続きませんでした。平成に入って初めて、平成4年1月に天野先生の還暦のお祝い会を開きました。井草会会報委員の皆さん今回ありがとうございます！ ご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。井草 ファイト！

クラス会便り

十八会を終えて

●高女4回生 伊達成子 中原照子

昭和18年に井草に入学した私たちは、戦中戦後とともに乗り越えてきたという底力をお互いに感じ、認めあっているのです。それぞれに違った人生をおくっているけれど、出会うと、あの井草の土のにおいの中で育てられた独自の気風を感じとれるです。そして、健在を祝福しあい、将来への期待をもって別れるのです。10年20年そしてずっと続けていきたいものです。



●高校14回G組

平成5年6月5日に、新しく住所の判つた方も参加して18名で、浦安から屋形舟で楽しいひとときを過ごしました。（原京）

●高校15回E組

平成6年7月30日に、新宿のお寿司屋で13名集まりました。今年は少人数でしたが、1年で転校した人も加わり、旧交をあためました。来年は、10月28日を予定しています。（渡辺薫）

●高校22回G組

平成5年6月27日に、西新宿モリノビルで20年ぶりのクラス会が開かれました。久我先生も楽しみにしていらしたのですが、ご不幸ででき欠席でした。17名のなつかしい顔ぶれが集まり、京王プラザでの2次会まで盛り上りました。（星野「鈴木」純子）

一言通信

会費振込用紙の「一言コーナー欄」より抜粋

高女1回2組 後藤（中島）葉子

会報で鈴木貞三先生のご逝去を知りました。東洋史の時間と思い出しました。当時、（戦時中）わずかの授業時間は、むしろ充実していました。生徒一人一人の名前を確かめるように教室内にくまなく目をやりながら、独特の口調でドラマチックに教えて下さいましたね。合掌。

高女1回3組 山本（岡部）宏子

会報を見るとしばらくいろんな事が思い出されてボーッとしています。鷺宮の仮校舎時代の事や、上井草の校舎への引っ越し、早大プールでの水泳、軍需工場行き、空襲とあわただしい生活でしたが、今ともなると懐かしい限りです。
身にしみて思うのはもっと勉強しておけば良かったなあ。大変元気です。

高女3回1組 仲沢（中島）よね子

鎌倉に住んで30年近くになります。古流華道教授として、鎌倉駅、鎌倉八幡宮、銀座松屋等の花展で発表しております。

高女4回3組 福原（服部）ひさ子

井草高女に入学した年から半世紀が経ちました。世の中も日本も大きな変化を遂げました。然し、私の心の中に故郷「井草」はいつも美しい風景と共に先生や友人の姿が昔のまま生きています。母校の発展を祈ります。

高校2回A組 山路（小林）玲子

アメリカに約3年在住、帰国して1年余り主婦業をしていましたが、この4月から以前のスイミングクラブに復帰、孫のような子供達と自分の年齢を忘れて、又、又、1年中裸の生活、水商売をはじめました。

高校3回A組 須子（坂井）美津代

ハンドボール部としては、初の国体（福岡）に参加した昭和26年卒です。ハンドボール部の集まりがありましたら、ご連絡頂きたいと思います。

高校5回E組 鈴木（服部）とし子

高校5回生は、平成6年に還暦を迎えます。「みんなで迎えりや若くなる」の合言葉のように生まれ変わって若々しく同級会も一泊とか楽しみにしております。

高校8回B組 片桐（田中）智子

同窓会名簿の作成は同窓会の人数も多い事もあって作成・発行にかかる費用も多額になると思いますのでもっと年数を開けて発行した方がよいのではないかと思います。5年間位の卒業名簿を補助的に追加発行したら費用も少くすみますし、全卒業生名簿は20年、30年に一回位でよろしいのではと思いますが、如何なものでしょうか？そうすれば、名簿が余り困ることもないと思います。

高校12回B組 鈴木（斎藤）節子

卓球部は活動していますか。部員が少なくて廃部になるかも知れないと聞きましたが、OB・OGと部員との交流会があると聞いていたので、残念に思っています。

高校12回C組 田端（二瓶）和子

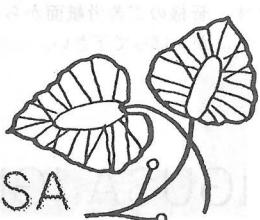
上井草より先に住むとは思ってもみなかつた新所沢に住んで20年になります。車窓から見るだけの母校ではありますが、通る度に皆元気かしらと思います。

高校13回D組 斎藤（富田）勲

群馬に住んで、早や20年、住めば都といふけれど、今より4百年昔は、江戸より京都に近かった。文化遺跡としての歴史はいろいろ残っている。地場の人々との交流を持つとき、お上抜きの人間のふれあいが感じられる。私はこの素朴さが好きである。

高校14回A組 関根賢三

平成5年4月より、三井信託銀行多摩桜ヶ丘支店にて支店長を務めています。運用、借り入れ、土地売買、遺言、相続等お気軽にお相談下さい。連絡先：0423-74-3211（三井信託銀行多摩桜ヶ丘支店）



IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA

IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA

高校14回F組 志賀（加納）琴子

大隅先生、若林先生のご近況を読んでお元気で何よりです。若林先生は当時、ご結婚なさった時で、私たちの冷やかしにお顔を真っ赤にされたのを覚えています。

高校16回C組 丹羽一洋

私は現在、会員数千名の会の幹事を引き受けておりますが、井草会同様に？会員の増加に対し、会費未納入の増加、年一回の総会の低調な出席率、郵送費の高騰などに悩んでおり、井草会幹事の方々の苦労をお察しいたします。

高校18回B組 寿（鴨下）茂子

縁あって7年前より徳之島在住です。南の小さな島より母校の発展をお祈りいたしております。

高校20回C組 石川和重

息子が高校入試の年になり、28年前の自分を思い浮かべます。これから高校生活を送る息子がうらやましく思います。クラスの仲間達はどうしているだろう。元気でいることを願っています。

高校21回C組 高橋（児玉）元子

昨年6月に右乳ガンがわかり、8月に手術しました。早期発見で転移がなかったものですから会社は1月半休職しただけで復帰しました。子供の世話が大変なことと、環境が良くないので、実家に戻ってきました。今はガンの治療をしながら、子供を保育園に預けて、勤めに出ています。

高校21回G組 安田忠

昭和49年より20年続いた我々ハンドボール部OB会のクラブチーム井草クラブが平成5年度をもって活動を終りました。過去に全日本・全国クラブ選主権等に出場し、その時々にOB・OG・先生等の応援をいただきました。後は超OBチームの上井草クラブができる限り続けてまいりますのでよろしく。

高校21回G組 野島治樹

担当の皆様大変ご苦労様です。事務もずいぶんと機械化されているようですが、会費の納入についても預金口座からの自動引き落としを考えて見てはいかがでしょう。収入代行の会社も多数ありますよ。

高校23回A組 古越（諸星）真由美

会報いつも楽しく読ませていただいています。皆様のご苦労紙面からもよくわかります。がんばって下さい。

高校24回B組 猪口（小林）久乃

卒業して20年を過ぎるまでは同期生は今40歳、「井草」もかわっただろうと思います。

高校24回E組 相模正

海外でておりますが元気でやっております。皆様もお元気で次のクラス会にお逢いでいると思います。

高校24回F組 平林（松本）佐知子

いつまでも若いつもりでしたが、とうとう大台の40歳。青春期を懐かしむ年頃となりました。いつか同期会、クラス会などに参加させて頂きたいものです。

高校24回H組 島津（加藤）広美

懐かしく青春の1ページがよみがえってきます。数学の井村先生、世界史の高野先生、G組の福島先生お元気でしょうか？お会いしたいものです。

高校26回C組 田辺司

埼玉県で教員をしています。20年前に卒業したのが嘘のようです。中沢組の皆さん。クラス会をやりましょう。

高校27回B組 押山（小関）直美

5年間にわたるアメリカ生活を終え、やつと日本に帰ってきました。今後もまたどこかへ転勤が繰り返されるようですがしばらくは日本に慣れるよう一家で努力しています。アメリカで井草の後輩と会いました。わずかな数の日本人家族（10家族）の中で偶然にびっくり。

高校27回F組 山口（原田）千鶴子

井草会会報をお送りいただきありがとうございます。発行までの苦労を想うと軽く読み流せません。記事の端から自分たちの高校時代を想起すると同時に、現在の高校生、また学校はずいぶん変わっているのでは・・・思っております。

高校28回C組 小林（福永）里美

冷害で米が殆ど実らなかった昨年、岩手に来て10年・・・こんな年は初めてです。でも旅館等に米がないという事はありません。おいしいご馳走もあるので都会暮らしの方々にも是非遊びに来て欲しいですね。

連絡先：旅館「こりん亭」

TEL.0197-82-3211

岩手県湯田町湯本温泉

高校30回B組 伊集院（三浦）直子

今、大学で卒業研究を行っている最中です。子育てをしながらの勉強はきびしいものがありますが、井草高で学んだことがいろいろな面で役立っています。

高校30回C組 石塚理子

会報に同級生の名前を見つけると懐かしく思う年代になってきたようです。（それだけ会っていない年月がながくなってしまったということでしょうか）。マイペースで生きてきて、久しぶりに昔の会社に戻ったら、井草の後輩がいてビックリ。それも10年も後輩だと知ってさらにオドロキ。でも新しい知識を教えてもらう日々で、感慨深く思います。

高校30回D組 海保（野村）和代

忘れた頃にポン！とポストに入っている井草の会報。懐かしさと幸せな気持ちでなんともいえない気分になります。家は、千葉、職場は大井町と井草の方へ行くこともないのですが、いつも行きたいなーと思っています。先日のワニ事件で石神井公園がTVに映った時はへばりついで見て、かわっていないなとうれしかったです。

高校32回A組 山田（新井田）玲子

義姉が井草のすぐ近くに住んでいて、時々うわさを聞くのですが、自転車の乗り方がひどい！と怒られました。OBとしては、よくないうわさを聞くのがとても悲しいです。現役のみなさまによろしく伝えて下さいね。

高校32回D組 田中美穂

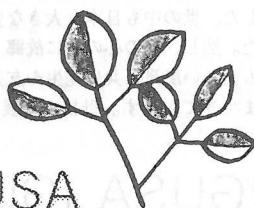
前号に載っていた入間の友人と八重桜の季節に、"井草ツアーア"をしようと思います。「からまつ山荘」がとりこわされることなく譲渡されたのはとてもうれしい事です。一度も利用した事はありませんが、お金をかけてこわすなんて、耐えられません。人の手に渡っても存在すれば、近くに行つたとき見るだけでもできます。

高校33回E組 木村裕子

私事乍ら4歳と2歳半の息子に囲まれ毎日賑やかに大変な日々です。家業の日本そば店にてがんばっています。OBの皆様方もお近くにおいで際にはお気軽に立ち寄りください。連絡先：「大むら」3390-7646、杉並区本天沼2-43-9

高校34回C組 波田野（西）真由美

卒業して12年、家事と育児に追われる日々を送っていますが、娘が昼夜をしてホッとしたとき井草での楽しい高校生活がとてもなつかしく思い出されます。30歳になり少しは昔を振り返る余裕が出来たのでしょうか。



IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA

IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA

高校34回I組 今泉克巳

井草会専用の事務所の必要性には、疑問を感じます。公共の貸会議室は、区にはたくさんあります。なぜ必要なのかの説明が抽象過ぎ、具体性はありません。若者・社会の中心として働いているサラリーマンの会費未納がこの会費値上げで増えるのを危惧します。

高校35回I組 辰巳(池端)幸子

からまつ山荘の閉寮、時間の流れを感じます。3年の夏、ギター・アンサンブル部の合宿で行った時は台風の影響で、電気と水道が止まってしまいました。夜、暗闇の中、ろうそくの灯りを囲んでギターを弾いたことが良い思い出となっています。

高校36回E組 新倉(池田)敦子

何回生と会報にあってもピンときません。何年卒業と書き添えてくださると分かりやすいとおもいます。初めての子が生まれましたが、お父さんお母さんになっている同期の人も多いのだろうと思いおかしくなります。みんなどんな顔で育てているのでしょうか。

高校36回H組 森久夫

パソコン通信について詳しく教えて下さい。北海道在住ですが、通信なら意見交換ができるのではと考えています。

高校37回C組 永田(望田)涼子

もう井草には知っている先生もほとんどいません。でもまた近所に越してきて、今は子供連れで懐かしい思いで井草の前を通ったりします。ほんの昨日のことのようにあの頃を思い出します。

高校40回C組 岡田千賀子

練馬もだんだんと緑が少くなり、マンションやアパートの建設が目立ってきました。井草高校の辺りも変わってしまったのかと思うと少しあましいです。今度、井草祭でも見に行って高校周辺を徘徊してこようかななどと思いました。これからも会報を楽しみにさせていただきます。

高校42年E組 神戸能登

懐かしい学校・最高だった。

高校45回D組 井上纏絵

まだ学生で収入がありませんので寄付はできませんが、就職したらぜひ協力したいです。

IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA IGUSA

編集部より

会員の方から、時折り編集部に、「『井草会会報』には、“高校何回生”というように卒業回数が載っていますが、私は自分の回数を忘れてしまいました。できたら、“何年卒”と、卒業年度で掲載して下さい。」というご意見をいただきます。

こうした意見の方も多数いらっしゃるかと思いますが、井草会会員の中には、諸般の事情により中途退学された方が約100名おいでです。こうした方に配慮したことと思われますが、井草会では伝統的に、入学年度を基準とした“何回生”という表現をしておりますので、ご了承下さい。

なお、因みに、高女1回生(昭和20年3月卒業)～高女5回生(昭和24年3月卒業)。高校1回生(昭和24年3月卒業)～高校46回生(平成6年3月卒業)となっております。

WANTED

次の方の住所が不明です。ご存じの方は、井草会までご連絡下さい。

*住所変更された方も必ずご連絡下さい。

高校31回生(昭和54年卒業)

A組：(担任、中沢正樹先生)志賀直彦、清水雄二、伏見昇、諸江祐一、岩田康子、中山弘子、伏見(利根川)理子、長谷川佳子、本橋清子、岩崎(藤井)圭子 B組：(担任、小沢省三先生)池上隆、石橋聰、岡部豊、沼田純明、原田亨、本田邦利、藤田(五十嵐)恵理子、指宿美佐子、岡田みどりこ、鈴木敬子、富沢加代、佐藤(中村)朋子、藤森朋子、三木ちえ C組：(担任、杉野隆先生)藤岡由郎、多田博巳、高野久美子、川上恵利子、広瀬泰子、前田美穂、山本恵子 D組：(担任、平岡珠樹先生)石田治夫、後藤隆生、滝沢秀之、米村康博、斎藤博子 E組：(担任、高部訓武先生)常盤純子、原田美穂子、大場(古野)絵里 F組：(担任、名倉敏生先生)今村保雄、金子敏也、川辺浩一

郎、佐伯茂樹、増田一穂、三沢和也、阿部(川上)ゆかり、黒沢和子、中村(小泉)行子、操野(近藤)さや、鈴木(笛岡)美恵子

G組：(担任、小川敏子先生)鈴木稔、中島永晶、鈴木理加、橋本佳子 H組：(担任、柳牧也先生)飯田高志、榎本順一、金子浩行、福田聰、本多真行、三橋信幸、小比賀優子、大谷紀子、吉沢(田原)京子、高橋浩子、古沢明美、福富(高山)朋子、三ツ野恵、各務(若本)弥佐子 I組：(担任、桑原信淑先生)川崎基弘、塩谷弘康、杉山(青木)知子、斎藤秀子、中井麻記子

(担任、高橋公治先生)黒川拓、曳地美乃里

D組：(担任、米山和子先生)榎元智靖、田丸敦之、八尾幸仁、松原規子、矢野飛鳥

E組：(担任、松沢亮先生)沢幡敬和、広瀬剛臣 F組：(担任、結城健三先生)伊郷彰彦、神田和樹、山内竜也、大野志奈 G組：

(担任、菊池尚人先生)西野貴紀 I組：

(担任、村本直美先生)畠山織枝

高校44回生(平成4年卒業)

B組：(担任、横沢明翁先生)森裕一 C組：(担任、三浦裕先生)古山美香子 D組：(担任、林悦三先生)伊東尚 E組：

(担任、都丸豊先生)棚沢弘孝、桜田貴子

G組：(担任、荒井整先生)大石富士雄、加藤厚史、圓道のぞみ H組：(担任、島田礼子先生)栗村洋子

高校43回生(平成3年卒業)

A組：(担任、名倉敏生先生)奥井淑恵、神宿央江、斎藤昌美 B組：(担任、桑原忍先生)龍谷伸介、横尾樹紀、平井和愛 C組：

「井草会フォーラム'93」より

昨年井草会のあらたな試みとして、
井草祭にてOB・OGの座談会を行いました。
以下には、当日VTRで紹介したSF小説家の新井素子さん
(高31回D組) のインタビューを掲載します。

高校時代について

Q：高校時代はどんな生徒だったのですか。

A：普通の生徒でした。ただ井草高校の印象は、周りに煙が多くて、隣にパン屋が1軒あっただけで何もなかった記憶があります。

Q：高校時代の経験で現在まで覚えている事柄についてお聞かせ下さい。

A：高校時代に一番印象に残っていることは、井草祭です。当時は体育祭と一緒に1週間続けてお祭りという雰囲気でした。学校中が盛り上がって、殺氣立っているようでした。演劇部と図書委員を兼ねていて、古本を売って図書の購入費にあてました。2年の時は喫茶店をしました。

Q：当時の学校生活はどうでしたか？

A：小説は、本格的には中学校時代から書いていましたが、高校2年の時に、新人賞の佳作をとりました。いつも学校から帰って夜小説を書いていたので学校では、眠かったし、よく居眠りもしたと記憶しています。それでも先生はおおらかで、勉強したい生徒は頑張ってこい、と言う態度でしたが、そうでない人はみんなに迷惑をかけなければよいという雰囲気があったようです。

Q：当時はどんな作家が好きでしたか。

A：よく読んだのは、中学の時は、最初は星新一、それから平井和正、高校では、半村良、山田風太郎などです。

Q：どんなきっかけで小説を書くようになったのですか。

A：両親が編集者だったので、物心つくころから、本やとりわけ原稿用紙に囲まれていたので、幼児時代からお話しを書いていたそうです。SFが好きだったので、中1の夏休みに100枚の作品を書きました。100枚というと原稿用紙でかなりの厚さになるので、そのままにするのがもったいないので、友達に読ませて悦にっていました。そんな風にして、中学で3~4本の小説を書きました。佳作に入選した作品は、高校2年の時に出したのですが、編集者が応募が多くないとかをくくっていたら1000編を越す作品がきてしまい、選考作業が半年くらい遅れました。それ以来、高校のかたわらプロとして小説を書き始めました。

現在について

Q：新井さんの小説のモチーフは何ですか。

A：本を一冊書くのに半年近くかかります。常に何本かのテーマを抱えながら書くので、モチーフは何年も暖めています。結果として、思いついてから原稿になるまでに2~3年かかるのでモチーフも深く推敲することができます。モチーフ自体は、身近にあることですが、時間をかけて孵化させてゆくのです。

Q：今まで書かれた小説で一番気にいっているのは、どれですか。

A：しいてあげれば、「おしまいの日」です。高校生からすれば、主婦の話なのでとっつきにくいかもしれません、私は気にいっています。

Q：どんな日常生活をおくられているのですか。

A：普段は完全に夜型です。夫がサラリーマンなので、夜食を作つてから、深夜1時~2時から6時ごろまで書いて、朝、夫を送り出してから、8時ごろから3~4時まで寝ています。夕方から買い物にいつてその際必ず本屋さんへります。こんな風です。

Q：一年に休みは何日ぐらいあるのですか。

A：旅行に出たりする時は仕事をしていませんが、家にいる時は主婦業もやっていますので、24時間勤務のようです。

Q：どんな読者を意識して書いていますか。

A：私の場合常に同世代の人を意識して書いています。自分より上の人は、対象にいません。自分の成長とともに読者層も上がって欲しいと思います。

今後について

Q：スチーブンキングが好きだと言われていますが、影響されていますか。

A：私はホラーが大好きなのです。それは「怖がりたい」からです。シャイニングを読んだ時みたいに怖がりたいし、また怖がられてみたいのです。ですから、ホラー、それもモダンホラーを書いてみたいです。

Q：新井さんの小説はどんな社会的意義があると考えますか。

A：私が小説を書く意味は、ただ「暇つぶし」になったら良いと思うからです。それは、別の見方からすれば、エンターテイメントと言えるのでしょうかけれども、私はただ良質の暇つぶしになれば、最高だと考えています。



新・入学選抜制と本校の現状

教頭 武田裕治

高校の入学選抜もグループ選抜から単独選抜に移行した。第二志望の制度がなくなり一本勝負になったことと、業者テストが利用できなくなったことで中学校側と受験生・父母に戸惑いがあり、意外な高校に定員割れが続出し、二次募集をするハプニングが起った。

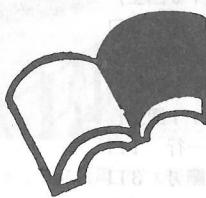
本校は、地域住民や中学からの評価と期待が高く、男女ともに1.7倍を越す応募があり、応募者全体の成績もアップして優れた生徒が多数入学してきている。今年から隣接学区からの応募も可能になったが、他学区からの入学者は定員の2割までの制限があり、また、初年度のことと不安があったため、他学区からの応募は極めて少なかった。しかし、今年の出願状況をみて、徐々に増加していくものと予想されている。

来年度からは、普通科の高校にも推薦入学制度が導入される。本校でも定員の10%までの入学者を中学校からの推薦をうけて作文と面接・調査書によって選考して決定する。

推薦入学は1月中旬に願書提出の予定で、都立高普通科の7.7%と商業・工業科などの全専門学科、さらに、多くの私立高校が実施

するので、2月の学力検査による1次募集の前に、全都では相当な数の入学者がきまることになる。受験生も父母も、早く合格を決めたいとの願いと、推薦入学で不合格の場合、一次募集での再挑戦が可能なので、推薦入学にはかなりの応募があると見込まれており、生徒減と相まって、入試模様が大きく変わると思われる。

「入れる学校をきめる」から「入りたい学校を選ぶ」という学校選抜の時代になり、学校の特色をいかに出すかということと、進学校としての井草の位置を高め、教育の実をしめすことがこれからの課題であると考えている。



平成6年卒業生進路状況

(推薦入学・既卒者を含む)

國公立大學	
東京水産	2
東京農工	2
電気通信	2
千葉	1
茨城	1
横浜国立	1
広島	1
山口	1
東京都立	1
都留文科	1
計	16名

私立大學	
東洋	40
法政	27
日本	24
大東文化	21
成蹊	19
駿河台	18
城西	17
中央	15
東京電機	15
駒沢	13
工学院	12
東京経済	12
帝京	12
武蔵	12
立正	12
東海	11
亞細亞	8
国士館	8
東京国際	8
計	510名

明治 8

青山学院 7

立教 7

早稲田 7

関東学院 6

学習院 6

神奈川 5

芝浦工 5

専修 5

多摩美術 5

東京工科 5

東京農業 5

獨協 5

武蔵野音 5

明治学院 5

拓殖 4

東京理科 4

明星 4

大妻女子 3

神田外語 3

北里 3

慶應 3

國學院 3

実践女子 3

創価 3

玉川 3

東京家政学院 3

日本体育 3

明海 3

和光 3

上智他18校各 2

短期大学

武蔵野女子 9

十文字学園女子 7

東京家政大 7

東京経済大 7

亞細亞 4

実践女子 4

武蔵野美術 4

大妻女子 3

学習院女子 3

共立女子 3

駒沢 3

産能 3

白梅学園 3

女子美術 3

東洋大 3

文化女子 3

川村他11校各 2

日本赤十字武蔵野

他20校各 1

計 114名

先生往来

着任:

【前任校】

(国語) 渡辺 聰哉	南高
(社会) 岩橋 正人	北野高
(社会) 桶口 兼久	昭和高
(理科) 静野 哲也	上野高
(保体) 鹿俣 聰	北園高
(保体) 鈴木 美津	墨田養護
(英語) 松内 晴美	東大和高

離任:

【移動先】

(国語) 高橋 誠治	国立高
(社会) 長谷川義晃	瑞穂農芸高
(社会) 小野 昭博	第四商高
(社会) 三浦 裕	小山台高
(数学) 宮崎 順介	八王子東高
(保体) 横沢 明翁	国分寺高
(保体) 小川 敏子	第五商高
(英語) 小坂 明子	三鷹高
(養護) 大和 真知子	退職

(敬称略)

訃報

宮下 博善先生 (理科)
平成5年2月24日
戸村 静子先生 (国語科)
平成6年6月5日
謹んでご冥福をお祈り申し上げます

専門学校

看護医療	16
情報ビジネス	14
デザイン被服	8
芸術芸能	6
体育	5
工学	5
その他	4
計	58名

職業

公務員	1
会社	3
自営	2

計

6名

114名

1

寄付者名簿

次の方々より井草会へご寄付をいただきました。ありがとうございました。

(高女1回生)	大島 良枝 1口	丹羽 一洋 1口	(高校32回生)
大木 千代 2口	板野 元子 8口	(高校17回生)	山田 玲子 1口
小島恵美子 3口	(高校7回生)	矢口 静世 8口	小原 健嗣 3口
宇田川和子 3口	三村 明敏 3口	滝沢 政代 3口	釣宮 雅代 1口
堤 恭子 3口	匿名 5口	吉越美津子 1口	(高校33回生)
清山 義子 3口	(高校8回生)	中井 直子 3口	木村 裕子 3口
山本 宏子 1口	津下キミ子 2口	(高校18回生)	清水 弘道 3口
清水恵美子 3口	橋本 良子 1口	石川 陽一 3口	(高校34回生)
(高女2回生)	遠藤 順子 3口	郡司 明郎 8口	今泉 文利 1口
幕内 紗代 8口	久保 敬子 3口	大久保みつ江 3口	波田野真由美 3口
菊谷 ひろ 1口	鈴木 悅代 1口	関口せつ子 3口	高野 郁人 1口
大泉 和枝 10口	(高校9回生)	矢内久美子 3口	(高校35回生)
(高女3回生)	杉浦 章子 2口	井田 邦夫 2口	大山 俊哉 10口
仲沢よね子 3口	岩下 理 3口	神内 浩子 3口	(高校36回生)
天野 俊子 3口	上保萬里子 3口	(高校19回生)	鈴木 千秋 8口
(高女4回生)	渡辺 節子 8口	鈴木 京二 3口	(高校37回生)
阿部 妙子 10口	野口 享子 3口	川勝 文雄 3口	斧原有由子 1口
渡辺ふさ子 3口	(高校10回生)	(高校20回生)	長尾 俊彦 1口
匿名 3口	沢地鶴二郎 3口	石川 和重 1口	(高校38回生)
福原ひさ子 10口	関口 素子 1口	田中 英明 3口	山中 宏泰 1口
登坂美佐子 2口	東原 哲子 8口	(高校21回生)	佐々木育子 2口
(高校2回生)	(高校11回生)	松下 房子 1口	(高校39回生)
遠山由紀子 1口	本間 一行 1口	(高校22回生)	平林 大 3口
山路 玲子 3口	内田 剛男 3口	二宮美恵子 2口	河橋 英子 3口
渡辺 旭 10口	中山 雅夫 3口	近藤小百合 1口	(高校40回生)
(高校3回生)	清水 宏之 3口	佐藤 哲夫 3口	岡田千賀子 3口
須子美津代 3口	臨光 哲也 3口	(高校23回生)	(高校41回生)
中垣 優子 3口	宮武 信子 1口	古越真由美 1口	匿名 3口
大友 朝子 3口	(高校12回生)	原島 幸子 1口	吉浦 和孝 2口
藤広 洋子 3口	鈴木 譲 1口	(高校24回生)	大野 敦史 1口
萩原カツ子 2口	鈴木 節子 1口	猪口 久乃 1口	(高校42回生)
鈴木 安江 1口	細谷 春来 3口	井上 晴夫 2口	神戸 能登 3口
(高校4回生)	KORN 千鶴子 3口	聖川恵美子 1口	石川 朝征 1口
高橋 一子 1口	(高校13回生)	(高校25回生)	(高校43回生)
大久保藤子 3口	富永 武幸 3口	河崎 立枝 1口	山本 浩之 1口
小島 君子 1口	木下 正雄 10口	(高校26回生)	井本 志保 3口
伊藤奈美子 3口	武田 順子 3口	田辺 司 3口	(高校44回生)
石井 敏子 3口	峯島喜実子 1口	鈴木美知子 1口	大場ひとみ 1口
落合 美恵 1口	小松 愛子 3口	(高校27回生)	安西 充 2口
岡安 敏子 3口	(高校14回生)	斧原 俊昭 1口	(高校45回生)
(高校5回生)	関根 賢三 2口	原田 純 3口	瀬尾 美香 3口
野沢 ユキ 1口	三宅みどり 1口	山口千鶴子 1口	内藤 優己 1口
阿久津道子 3口	白岩 成子 1口	(高校30回生)	小茂田雅子 1口
田代 英夫 3口	齊藤 靖子 3口	古江 英美 3口	東島 聖一 1口
星野 玲子 3口	原 京 1口	伊集院直子 1口	高橋 賢一 2口
(高校6回生)	(高校15回生)	黒沼 恵子 2口	(敬称略)
星野 光利 3口	川村 昭子 3口	(高校31回生)	一口：1,000円
今出己津子 3口	小野 節子 3口	三田美代子 3口	平成6年6月30日現在
石元さよ子 1口	(高校16回生)	阿部 恵 3口	
上島千鶴子 3口	国場 覚 8口		

編集後記

井草も50周年を越え、100周年に向かって、21世紀に向けて歩み出しました。今年は、同窓会の事務局も設立されるなど、井草会の新たな動きが始まりました。それに合わせて、この会報も、思い切ってA4サイズにして、縦書きから横書きへとリニューアル。内容も、OB・OGインタビューを加えました。衆議院議員の中川さんは、議員会館にお邪魔して、村山内閣組閣当日のテント村を見下ろす部屋でお話を伺いました。そして松村さんは、新宿の都議会に

お訪ねしました。お二方のお話から、60年安保の騒然とした時代にあってものびやかさを保っていた「井草の気風」が、政治家としての原点にあるように思われました。自民党と共産党と、政党は違いますが、お二方の今後の活躍を期待します。

昨年来、会報を年2回発行する方向で検討しましたが、今年は紙面変更で手一杯です。力不足をお詫びします。新しい会報について、会員の皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

(名方記)